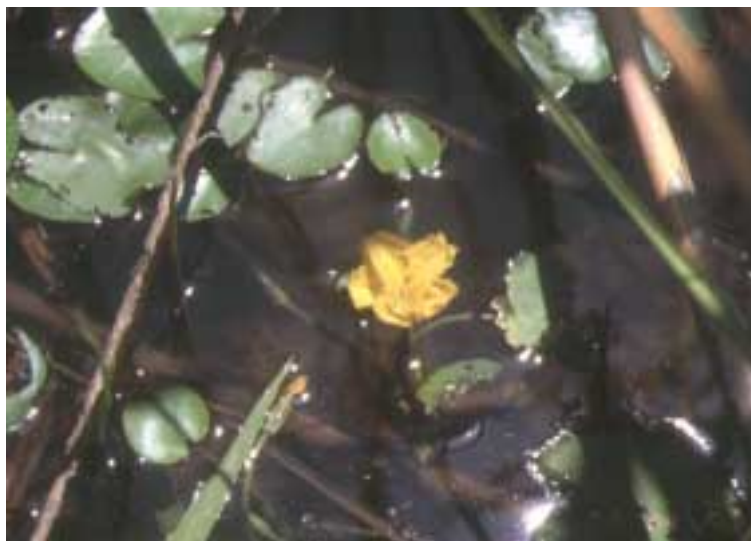

河北瀉湖沼研究所通信

Vol.5 No.1

アサザの花が咲きました



アサザの花（撮影場所 ビオトープ池 99年5月29日）

河北瀉では、水生植物のアサザ *Nymphaoides peltata* (Gmel.) O. Kuntze は今のところ西部承水路と東部承水路周辺に分布しているのが確認されていますが、いずれの自生地でも生育が危ぶまれています。これまで北陸地方のアサザは花をあまりつけないと言われていましたが、昨年造成されたビオトープ池では、写真のように花を咲かせています。

アサザについて、角野康郎著「日本水草図鑑」から紹介します。

- ・水底の地中を匍匐する地下茎から葉柄が伸び、その先に卵型～円型の葉を水面に広げる多年生の浮葉植物。
- ・葉の大きさは、長さ4～12cm、幅4～9cm、低い鈍鋸歯があって葉縁が波状を呈する。葉の基部は深く切れ込み、裏面は紫色がかる。
- ・花期は6～9月。花は葉腋に多数の花が束生する集散花序につくが、1日に咲くのは1花。花は黄色で径3～4cm、花冠上部は5深裂し、縁に毛が顕著である。
- ・花は雄しべ5本、雌しべ1本を持つ。3タイプの花すなわち長花柱花（雌しべが長い）、短花柱花（雄しべが長い）と等花柱花（雄しべと雌しべの長さがほぼ同じ）が知られる。
- ・集団によっては開花がきわめて稀であるが、これが生態的要因によるのか遺伝的要因によるのかは不明である。
- ・全国の湖沼、ため池、水路などに群生する。花期には水面が黄色く染まるほど群生する場所が各地に見られたが、最近は消滅する場所が相次ぎ、絶滅危惧種に挙げられている。（関連記事が3ページにあります。）

河北潟周辺の遺跡（１）梅田 B 遺跡 弥生時代の水田跡の発見

河北潟湖沼研究所生物委員会 石原一彦

未来の河北潟についてイメージを画く際に、潟の現状を把握する必要があることはもちろんですが、河北潟の過去の様子を知ることもまた重要です。干拓前の河北潟の文献については江戸時代以降のものが多くなかで、筆者は河北潟周辺に点在する遺跡の文献を収集しています。考古学的な発見からも昔の人々と生物あるいは農業との関わりについてうかがい知ることができます。今回紹介する「梅田 B 遺跡」では多くの水田跡が確認され注目を集めました。

「梅田 B 遺跡」は金沢市梅田町にあり、河北潟の南東約 5km に位置します。河北潟から当地までは低地が続いていますが、遺跡の背後には森本丘陵がせまっています。この遺跡の発掘調査は金沢東部環状道路建設工事に先立って平成 5 年から行われていて、現在継続中です。これまでの発見の中でも興味を引くのが、平成 8 年度の調査で確認された弥生時代末期の水田跡です（図参照）。

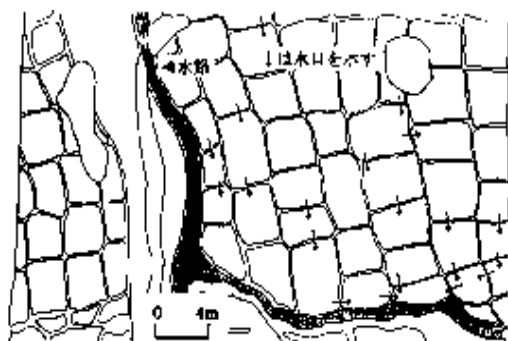


図 発見された水田跡（石川県埋蔵文化財保存協会、1996 より作成）

現地説明会のパンフレット（1996）からこの水田跡の特徴をあげます。

- ・約 50 枚の水田跡が確認されました。
- ・小型の田が多く、1 枚の田の面積は 4～20 m²、平均約 10 m²でした。（すなわち 3～4m

四方の大きさです。）

- ・水口（みなくち）と呼ばれる水の取り入れ口が確認されました（図中の矢印）。
- ・弥生人の足跡が多く残されていました。
- ・水田跡の上に細かい砂が堆積していました。
- ・弥生時代の水田跡が一定量まとまって発見されたのは石川県内初めてのことで

1 枚 1 枚の田が小さいのは、適当な水温を確保するためであろうとの説があります。弥生人の自然に対する理解と知恵がうかがえます。

これだけ多くの水田を良好な状態で確認できたのは、上に堆積していた細かい砂のためであると言われています。この砂はどのように堆積したのであろうか？ 近くの河川が氾濫したのでしょうか？ その時、弥生人たちはどうしたのでしょうか？

弥生時代に森本丘陵の麓に水田地帯が広がっていたことは非常に興味深いことです。この後、水田地帯は時代を経てどのように河北潟方面へと伸びていったのでしょうか？ 今後一帯の調査が進めばこの謎は解き明かされるかもしれません。

梅田 B 遺跡では、この水田跡の他にも、13～14 世紀の土坑から多数のトチの実が出土しました。中世の食生活の一端がしのべられます。また地震によるとみられる多数の噴砂跡が見つかりました。層の堆積状況からこの地震は少なくとも 14 世紀以前に起きたと考えられます。この地震は河北潟に何をもたらしたのでしょうか？

今回紹介した梅田 B 遺跡の周辺を見渡しますと、森下川流域沿いに古墳群をはじめ多くの遺跡が点在しています。この事実は、森本川流域、さらに想像をたくましくすれば河北潟がはるか昔から人々の生活に重要な役割を果たしていたことを推測させます。太古の河北潟への興味は尽きません。

参考文献

石川県埋蔵文化財保存協会（1996）梅田 B 遺跡第 4 次調査現地説明会資料

ビオトープ池とアサザ

河北潟湖沼研究所生物委員会

われわれは、昨年度河北潟周辺の水生植物の分布調査を行いました。その結果、アサザをはじめミズアオイ、ミクリ、コウホネといった、全国レベルの稀少種の分布が確認されました。しかしながら、この4種はいずれも自生地のほとんどが危機的な状況にあります。

そこでわれわれは干拓地内にある内灘町水質浄化実験施設近くに穴を掘り、潟の水を引いて小さな池（通称「ビオトープ池」）を作りました。この池には、これらの稀少水生植物4種をはじめ、ガマ、フトイ、サンカクイ、シヨウブなどが河北潟周辺の自生地から移植されました。1年余を経た今、水生植物の繁茂するこの池にはアズマヒキガエル、トノサマガエル、ギンヤンマ、ミズカマキリ、マツモムシや小型のゲンゴロウ類などの小動物が住み着いています。アサザも池を覆い尽くすまでに殖えました。そして、5月18日には4個の花を咲かせました。以後花の数は増え続け6月の中旬では毎日100個以上の花を咲かせています。

このアサザは、西部承水路脇の農業用水路から移植したのですが、本来の自生地では現在のところまだ花をつけていません。この事実はアサザの開花が部分的に生態的（環境的）要因によることを推測させます。今後わ

れわれはアサザの開花条件についての調査も進めていきたいと考えています。

アサザの花には3つのタイプがあり、ビオトープ池のアサザの花はすべて同じタイプでした。もしかしたら自生地の西部承水路周辺にあるアサザは遺伝的に同一個体（クローン）かもしれません。環境の変化が起きたときに、河北潟のアサザの集団が生き残るためには集団内に遺伝的な多様性が保持されていることが重要です。このためには、異なるタイプの花の間で花粉の授受による種子繁殖を行っていたほうが有利です。

河北潟周辺では、津幡川の河口から湖南大橋にかけて東部承水路沿いに走っている農業用水路および排水路にもアサザが点在して分布しています。この水路では最近三面張りの護岸工事が始まり、アサザはいくつかの分布点で絶滅してしまいました。現在、津幡町漕艇場付近に分布するアサザのすぐそばまで工事が進んできています。

西部承水路側と東部承水路側のアサザの花のタイプが同じなのか、異なるのかを調査することと同時に、河北潟のアサザの遺伝的多様性を守るために東部承水路周辺のアサザの保全が望まれます。

河北潟の生物（1）

オオヨシキリ *Acrocephalus orientali*

今の時期、河北潟を歩いていると、ヨシ原の影から「ギョギョシ、ギョギョシ、……」とけたたましい鳴き声が聞こえてきます。この声の持ち主が「オオヨシキリ」です。この鳥は夏になると繁殖のために日本に渡って来る夏鳥です。河北潟では6月頃からこの鳴き声が聞かれます。鳴いているのはオスで、なわばりをかまえてメスを呼んでいます。河北潟に来たら、ヨシ原の脇で耳をすまして下さい。そして、鳴き声のする方向を注意深く観察して下さい。高いヨシの茎にとまり、濃いオレンジ色の口の中を見せてさえずるオオヨシキリのオスに出会うかもしれません。

観察地点 河北潟のヨシ原地帯（例えば、宇ノ気町大崎や金腐川河口付近）。



オオヨシキリ：全長約18cm。頭部・背面・羽は灰色がかった茶色、腹部は白っぽい。

河北潟湖沼研究所の最近の活動

シンポジウム「地球 - 水 - 人間」に参加

去る5月30日(日)から3日間金沢市文化ホールにおいて開催された金沢大学創立50周年記念の国際シンポジウム「地球 - 水 - 人間」に、河北潟湖沼研究所も出展しました。

1. 河北潟湖沼研究所の活動の概要
2. 河北潟と水質浄化実験施設の水の比較
3. 過去の河北潟の風景写真
4. 河北潟における水生植物の分布と保全について(ポスター発表)
5. 犀川大豆田河川敷の市街地におけるビオトープとしての機能(ポスター発表)

第5回「河北潟」自然観察会を開催

去る4月4日(日)の第5回観察会には12名の参加がありました。ビオトープ池の水生植物と小動物(アズマヒキガエルのオタマジャクシやミズカマキリ)を観察しました。また、干拓地内に営巣するケリなどの野鳥観察をしました。巣を襲おうとするトビやカラスを追い払うために鳴くケリの親鳥のけたたましい声に関心が集まりました。この時期、風によぐハマダイコンたちが印象的でした。

第6回「河北潟」自然観察会を開催

去る6月6日(日)の第6回観察会には8名の参加がありました。森下川河口の砂州に飛来している鳥類の観察をしました。幸運にもクロツラヘラサギの姿をとらえることができました。シギ類やミサゴも確認しました。ミサゴが魚を獲るために水中に飛び込む様子に人気が集まりました。また、東部承水路周辺に生育するアサザとコウホネの現状確認を行いました。

イベントのお知らせ

第7回「河北潟」自然観察会

恒例の観察会を以下の通り実施いたします。今回は、水辺の小動物を観察する予定です。

日時 : 8月1日(日) 午前9時~12時

集合場所 : 河北潟干拓地第1号支道

内灘町水質浄化実験施設前

参加費 : 100円(保険代)

「河北潟」夏休み親子教室

楽しい夏休み。でも遊んでばかりいると作業を前にして宿題が大変です。毎年、自由研究は何にしようかと親子ともに悩んでいるご家庭がたくさんありませんか? 今年は河

北潟湖沼研究所が応援します。

内容 : 昆虫採集と標本作り・スケッチ

日時 : 8月21日(土) 午前10時~午後3時

8月28日(土) 午前10時~午後3時

集合場所 : 河北潟干拓地第1号支道

内灘町水質浄化実験施設前

参加費無料です。

第2回河北潟を歩く会

河北潟は広い! その広さを実感するべく干拓地内を歩きます。コースは水質浄化実験施設 西部承水路 干拓地第9号支道 カントリーババ(昼休憩) 中央排水路 ゴール、距離約8kmの周回ルートです。

日時 : 9月4日(土) 午前10時~午後3時

集合場所 : 河北潟干拓地第1号支道

内灘町水質浄化実験施設前

参加費 : 100円(保険代)

以上のイベントのお問い合わせは、**河北潟湖沼研究所金沢事務局 TEL: 076-261-6951**まで。どなたでもお気軽にご参加下さい。

事務局からの連絡

河北潟湖沼研究所は現在、NPO法人としての申請を行っています。これをもとに「友の会」の再編と活動の活発化をはかっていきたいと思っております。このところご連絡がとどこおりがちになり、大変ご迷惑をおかけしました。「通信」も今後は「友の会」の会報として定期的な発行をめざしたいと思います。

河北潟湖沼研究所通信 VOL.5 NO.1

1999年6月30日発行

発行所 河北潟湖沼研究所

920-0267石川県河北郡内灘町

字大清台302

TEL/FAX 076-286-0433

